彼は事業の方も成功させ、N. Y. に度々来るようになっていました。その間に私の兄の John が私と同じように仕事で日本を訪れすっかり魅惑され、仲の良い友人も増えていました。日本に住みたいと最近では言ってます。1994年に美術品の展覧会を催す為に、桜の満開の時期に日本を訪れることが出来たことで特別な思いを抱きました。カラオケを屋外でしている人達を、美術館から来た道から見た事も忘れられない楽しい思い出です。展覧会の併催後、私の日本人の同僚がヨーロッパに行かなくてはならなくなり、彼と彼の社員の方々が京都、奈良を案内して下さり、桜の満開も続いていました。食事、景色、おもてなし。本当に素晴らしい体験でした。滞在は奈良ホテルを手配して頂きました。滞在中、庭師の人達が新婚の王族が到着するということで、随分と庭園の手入れに精を出していました。

ここ3、4年定期的に会うようになり、私達の関係は違った形に進展しました。私の甥でニューヨークシティオペラに勤める Matthew が名古屋でのツアーを制作したきっかけで彼と会う事になりました。それ以来の付き合いが今でも続いています。2005年のNYCOツアーは国際的なフォトジャーナリストの Joe MacNally がこのツアーを撮影、記録する人として同行しました。（この時の作品は2006年にリンカーンセンターで展示されました。）私はこのツアーには彼らと行くべきだと思い、同行する事を決めました。日本へ行って、友人や同僚と再会するためです. 幸運にも彼の社員の方と名古屋に一週間滞在し、その素晴らしい旅の終わりに滞在していたパレスホテルで、立派に成長した息子さん達との再会を喜びました。

彼に会う度に彼の興味の幅広さと深さ、仕事での活躍に常に驚かされています。私達は沢山の部分でよく似ていると思っています。私は昔から多くの興味と傾向を持っていた事で少し精神的な問題があると思っていましたが、普通の事であると気づきました。それが彼と私の共有する特徴だと思っています. 最近かれから推理小説を書きたいという話を聞きましたが、全く驚きはしませんでした！

常に全てが彼に対しての新発見をもたらしてくれます。数年前に彼から引退するつもりだと聞きましたが、私は彼のこの今までにない多忙ぶりをからかっています。「驚きの連続」「素晴らしい友人」が一番に彼を表現する言葉なのです。

エレンとともに